

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和元年(2019年)5月

## 1 東京都中央卸売市場(平成31年(2019年)1-4月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約61万tで、前年比3%増、金額は約1,737億円 で前年比8%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約7.2万tで、前年比2%増、金額は約156億円 で前年比18%減となった。  
(金額の内訳は、野菜約130億円、果実約26億円。前年同期比で野菜21%減、果実3%増、平年同期比で野菜15%減、果実9%増)  
金額が【増加】した品目(前年対比)：きゅうり(113%)  
金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(38%)、みずな(69%)、こまつな(73%)
- ③ 茨城県の青果物入荷量は平年比2%増(シェア11.9%)、取扱金額は同11%減(シェア9.0%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1-4月計)			
	1-4月計	年間計	年間比	1-4月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	H31(2019)	606,628		72,076	←シェア(11.9%)		12.6%	7.0%	3.8%	
	H30	590,171	1,907,279	30.9	70,402	225,946	31.2	12.5%	8.8%	3.8%
	(前年比)	103			102	シェア(11.9%)				
	平年値※1	625,055	1,978,757	31.6	70,540	228,350	30.9			
	(平年比)	97			102	シェア(11.3%)				
金額	H31(2019)	173,670		15,614	←シェア(9.0%)		7.9%	3.2%	9.0%	
	H30	189,174	568,808	33.3	18,967	56,745	33.4	9.1%	3.1%	8.0%
	(前年比)	92			82	シェア(10.0%)				
	平年値※1	184,776	563,980	32.8	17,620	57,101	30.9			
	(平年比)	94			89	シェア(9.5%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5ヵ年平均。  
 ※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
 平成30年実績  
 (1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)  
 千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)  
 北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)  
 栃木県：金額シェア(5.8%)、数量シェア(3.4%)

## 2 東京都中央卸売市場(平成31年4月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

( )内は前年対比

野菜類の入荷量は約19千トン(96%)、単価は213円(118%)、金額は約40億円(114%)

果実類の入荷量は約1千トン(106%)、単価は775円(104%)、金額は約7.6億円(110%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5ヵ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)			金額(千円)				
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	レタス類	4,150	90%	88%	90%	198	131%	97%	98%	822,133	118%	85%
	ピーマン	1,181	93%	94%	107%	516	120%	109%	109%	609,138	111%	103%
	はくさい	6,211	96%	111%	104%	74	163%	81%	81%	459,182	156%	89%
	れんこん	355	84%	88%	92%	669	125%	96%	95%	237,517	105%	85%
	<b>野菜総計</b>	<b>19,002</b>	<b>96%</b>	<b>99%</b>	<b>99%</b>	<b>213</b>	<b>118%</b>	<b>93%</b>	<b>96%</b>	<b>4,045,762</b>	<b>114%</b>	<b>92%</b>
果実	いちご類	455	117%	104%	110%	1,044	102%	116%	110%	475,472	119%	121%
	<b>果実総計</b>	<b>981</b>	<b>106%</b>	<b>101%</b>	<b>100%</b>	<b>775</b>	<b>104%</b>	<b>112%</b>	<b>107%</b>	<b>760,117</b>	<b>110%</b>	<b>113%</b>

(野菜)

3月下旬～4月上旬の冷え込みにより、レタス類や葉物類を中心に入荷量が減少したことで、やや単価が上昇につながった。しかし、全体としては、入荷量は平年並みにある中、消費が振るわない状況が続き、単価は平年を下回った。

(果実)

4月上旬のいちご類は九州産地の数量が多く販売環境が苦しい状況であったが、その後は3月下旬の冷え込みや九州産地の出荷数量の減少、また、国産柑橘類の品薄傾向となり、量販店はいちご類を中心に売り場を展開したため、数量増ながら単価を保つ結果となった。いちご類など単価の高い果実類の数量増の影響もあり、果実総計のキロ単価も前年・平年を上回った。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出